

来春完成予定の盈進高新校舎。ガラス張りが特徴で、内部にもさまざまな設備や工夫が



盈進中学高校（福山市千田町千田四八七―四）を運営する学校法人盈進学園（鎌刈拓也理事長）が1月29日、長年の懸案だった高校校舎の建て替え計画を正式に発表した。

1904（明治37）年の創立以来、三万人近い卒業生を送り出した盈進。備後の政財界のほか都市圏でも多くの同窓生が活躍している、地元を代表する私学だ。次の五〇年を見据え、中学のコース再編や英語教育の強化などに取り組む中、校舎新築で新しい歴史の一步を刻む。

施工は地元 企業入札で

高校新校舎は、中学校舎の南側にあり陸上グラウンド（約一万三〇〇〇平方メートル）の一部に建設する。鉄骨造り四階建てで、延べ床面積は約九八〇〇平方メートル。今年4月に着工し、来年3月の完成を予定。2019年度から利用を開始する。

その後、現在の高校校舎三棟と食堂などを解体し、新しいグラウンドや部室棟などに整備する。総事業費は公表していないが、数十億円規模と見込まれる。費用の一部は文部科学省の補助金を充てる。

新校舎の設計は同窓企業でもある原設計（同市御門町）。施工業者は2月以降に一般競争入札で決定する。建築関係で働く卒業生も多く、地域貢献のため入札は福山エリアに本社のある共同企業体を対象とする。

現高校校舎は築四六年を経過し、耐震補強が課題となっていた。二年ほど前から建て替えに向け内部で協議を重ね、デザインを練り上げてきた。

生徒の交流に配慮

壁面に赤で盈進の校名とエンブレムをあしらった、南西向きの新校舎。目を引くのは、

盈進学園が高校校舎を新築へ

ガラス張りで生徒を育む工夫満載、来春完成



新校舎の建設予定地（手前）。後ろの中学校舎と渡り廊下でつなぐ

また屋上にはタンクを設置し、雨水をトイレ用に使うなどエコに配慮。エネルギーを有効に活用して光熱水費を抑える。施設はオートロック式にして安全確保に努める。

高校の普通教室は三・四階部分で、計三〇室。現在の六七平方メートルから八八平方メートルに広がる。板書用のプロジェクターは最新型の物をそろえ、IT化への対応を進める。同じく三・四階には一一七平方メートルのオーブンスペースをそれぞれ設ける。生徒同士が勉強を教え合うなど自由に使える。廊下の幅は、一般的な高校の二倍以上という五メートル。階

段の幅も四メートル、ゆったりとした構造にする。「生徒は学校で一日のうち約一〇時間を過ごす。通路を隣のクラスや異学年との交流を促進する場とし、将来にわたる人間関係の構築を目指す」と鎌刈理事長。

地元の人が出入りされる校にしたい」との考えからだ。現食堂も一般の利用が可能。また生徒らは、千田学区の住民と一体となって行事などに取り組んでいる。

一階にはほかに、広い吹き抜けの中庭や書道教室・物理教室、盈進の歴史を紹介する資料室などを設ける。

一階入り口正面には、現在の約三倍という三五〇平方メートルの図書室を配置。入り口横には八一七平方メートルと広々とした多目的ホールがあり、集会や催しに使う。入り口前には別棟の食堂を新築する。

これらは全て、地域に全面開放する方針。「学校は地域にとって重要な役割を果たすべき存在。学校再編の流れが加速する中、盈進は日常的に

二階北側には渡り廊下を付

社会に役立つ人材養成

ここ数年、高校を中心に受験者・入学者とも増加傾向の盈進。校内行事を生徒主体で運営させたり、若手教員を組織のリーダーに起用するなど改革が実を結びつつある。

生徒数は高校が八五一人、中学が二九六人。「平和・ひと・環境」を教育理念に掲げ、中学には独自教科（読書科・創作科・にんげん科）がある。卒業生は累計三万人弱に上り、同窓生の絆も強い。

「今後も社会に役立つ人材の育成をベースに、生徒にとって価値ある学校づくりをする」と鎌刈理事長。一人っ子が多い昨今「新校舎は、異年齢交流などを通じた基礎的な人間形成を支援できるように工夫を凝らした」と説明する。「生徒が志を高く持ち、将来を語り合いながら自ら成



英語教育強化などの取り組みを説明する菅校長

けて中学校舎と接続。一貫教育ならではの連携活動を強化する。中学は正門入り口周辺を改修し、事務所や応接室などの機能をまとめる。特別教室の多くも中学棟に移す。

同中・高の菅龍人校長も「学校の主役は生徒で、新校舎は生活空間でもある。不登校の子でも来なくなるような、楽しく元気になる場所にした」と意気込む。

目標とする。両コースとも、年間数回のボランティア活動、各分野の専門家を招いての「ホンモノ講座」、短期語学留学といったカリキュラムを導入。また中・高とも、昨年姉妹校提携を結んだ京都外国語大と互いに行き来して語学学習や体験講座を行う。

備後に根差しつつ、建学の精神である「実学の体得」に基づいて国際的に活躍できる若人の育成に注力する盈進。新校舎建設を機に、地元経済界からの優れた人材供給への期待も一層高まりそうだ。



「人間形成をハード面で支える新校舎に」と語る鎌刈理事長

「今後社会に役立つ人材の育成をベースに、生徒にとって価値ある学校づくりをする」と鎌刈理事長。一人っ子が多い昨今「新校舎は、異年齢交流などを通じた基礎的な人間形成を支援できるように工夫を凝らした」と説明する。「生徒が志を高く持ち、将来を語り合いながら自ら成

長できる学び舎になれば」

同中・高の菅龍人校長も「学校の主役は生徒で、新校舎は生活空間でもある。不登校の子でも来なくなるような、楽しく元気になる場所にした」と意気込む。

盈進の歩み年表

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 1904年 | 福山市東深津町出身の藤井曹太郎が、盈進商業実務学校として同市東町に設立 |
| 1933年 | 同市三吉町に移転 |
| 1945年 | 福山空襲で校舎が全焼 |
| 1948年 | 盈進商業高校となり、中学校を併設 |
| 1962年 | 普通科を新設して盈進高校に改称 |
| 1972年 | 千田町に移転 |
| 1979年 | 商業科を廃止 |
| 1992年 | 入学者募集を停止していた中学校を再び開校 |
| 2019年 | 高校新校舎が完成予定 |